

令和4年度
第3回学校運営協議会兼
第3回学校関係者評価委員会

第3回学校関係者評価委員会資料
学校評価アンケート結果より



令和5年3月3日
生駒市立俵口小学校

1～2年 子どもアンケート

じぶんのことを おもいだして、こたえましょう。あてはまる ばんごうに ○をつけましょう。

	おもいだすこと	そうおも う	だいたい そうおも う	あまりそ うおもわ ない	そうおも わない	
か く し ゅ う	1-①	かていがくしゅうを がんばった。	4	3	2	1
	1-②	かていがくしゅうとして、1ねんせい は20ぷんかん、2ねんせいは30ぷん かん、べんきょうすることができた。	4	3	2	1
	1-③	じぶんの かんがえたことを、ノート やプリントに かくことができた。	4	3	2	1
	1-④	がくしゅうしたくないようが、どんな ないようだったか わかった。	4	3	2	1
	1-⑤	じぶんのかんがえを、クラスのともだ ちに わかりやすく はなすことがで きた。	4	3	2	1
	1-⑥	じゅぎょうちゅうは、せきにすわって がくしゅうした。	4	3	2	1
せ い か つ	2-①	がっこうせいかつの きまりや こう つうルール、ともだちとの やくそく をまもった。	4	3	2	1
	2-②	がっこうのせんせい、ともだち、きん じょのひとに ていねいなことばを つけた。	4	3	2	1
	2-③	ふれあいタイムで ちがうがくねんの ひとと きょうりよくすることができ た。	4	3	2	1
	2-④	年下(としした)の子(こ)をだいに し、年下(としした)の子(こ)から し たわれたり、たよられたりした。	4	3	2	1
	2-⑤	ろうかを ただしくあるいた。	4	3	2	1
	2-⑥	がっこうのせんせい、ともだち、きん じょのひとに きもちのよいあいさつ をした。	4	3	2	1
	2-⑦	おしゃべりをせずに、しっかりと そ うじをした。	4	3	2	1

なまえ ()

なかま・けんこう	3-①	がっきゅうかいで よくかんがえて じぶんのいけんを いった。	4	3	2	1
	3-②	ひとのいけんを よくきいてから、じ ぶんのいけんを いった。	4	3	2	1
	3-③	ふれあいタイムでは、みんなでなかよ くあそぶには どうしたらよいかを かんがえてこうどうできた。	4	3	2	1
	3-④	きもちよく がっこうせいかつをおくるた めには どうしたらよいかをかんがえて、 いいんかいかつどうを おこなった。				
	3-⑤	たいいくのじかんには、しっかりとか からだをうごかして うんどうした。	4	3	2	1
	3-⑥	ふれあいタイムでは、たのしみながら からだをうごかした。	4	3	2	1
	3-⑦	やすみじかんには、そとにでてあそん だり からだをうごかしたりした。	4	3	2	1
がっこう	4-①	がっこうはたのしい。	4	3	2	1
	4-②	じぶんは ひとのやくに たっている とおもう。	4	3	2	1
	4-③	あいてのきもちを かんがえて こう どうしている。	4	3	2	1
	4-④	ちゅういされたときは すなおに は なしをきくことができる。	4	3	2	1
	 こまったことがあれば かきましょう。					

3～4年 子どもアンケート

自分のことを思い出して、答えましょう。当てはまるばんごうに○をつけましょう。

	思い出すこと	そう思う	だいたい そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない
学 習	1-① 朝の学習やかてい学習をがんばった。	4	3	2	1
	1-② かてい学習として、3年生は40分間、4年生は50分間、べんきょうすることができた。	4	3	2	1
	1-③ 自分の考えたことを、ノートやプリントに書くことができた。	4	3	2	1
	1-④ 学習した内ようが、どんな内ようだったか分かった。	4	3	2	1
	1-⑤ 自分の考えを、クラスの友だちに分かりやすく話すことができた。	4	3	2	1
	1-⑥ じゅぎょう中は、せきにすわって学習した。	4	3	2	1
生 か つ	2-① 学校生かつのきまりや交通ルール、友だちとのやくそくをまもった。	4	3	2	1
	2-② 学校の先生、友だち、近所の人に、ていねいなことばを使った。	4	3	2	1
	2-③ ふれあいタイムで、ちがう学年の人ときょうかすることができた。	4	3	2	1
	2-④ 年下の子を大事にし、年下の子からしたわれたり、たよられたりした。	4	3	2	1
	2-⑤ ろうかを正しく歩いた。	4	3	2	1
	2-⑥ 学校の先生、友だち、近所の人に、気もちのよいあいさつをした。	4	3	2	1
	2-⑦ おしゃべりをせずに、しっかりとそうじをした。	4	3	2	1

なまえ ()

なかま・けんこう	3-①	学級会で、よく考えて自分の意見をいった。	4	3	2	1
	3-②	人の意見をよくきいてから、自分の意見をいった。	4	3	2	1
	3-③	ふれあいタイムでは、みんなでなかよくあそぶには、どうしたらよいかを考えて行動できた。	4	3	2	1
	3-④	気持ちよく学校生活を送るためには、どうしたら良いかを考えて、委員会活動を行った。				
	3-⑤	体いくの時間には、しっかりと体を動かして運動した。	4	3	2	1
	3-⑥	ふれあいタイムでは、楽しみながら体を動かした。	4	3	2	1
	3-⑦	休み時間には、外に出てあそんだり、体を動かしたりした。	4	3	2	1
学校	4-①	学校は楽しい。	4	3	2	1
	4-②	自分は、人の役にたっていると思う。	4	3	2	1
	4-③	相手の気持ちを考えて、行動している。	4	3	2	1
	4-④	注意されたときは、すなおに話をきくことができる。	4	3	2	1
		こまったことがあれば かきましょう。				

5～6年 子どもアンケート

自分のことを思い出して、答えましょう。当てはまる番号に○をつけましょう。

	思い出すこと	そう思う	だいたい そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない
学 習	1-① 朝の学習や家庭学習をわすれずにする ことをがんばった。	4	3	2	1
	1-② 家庭学習として、5年生は60分間、6 年生は70分間、勉強することができ た。	4	3	2	1
	1-③ 自分の考えたことを、ノートやプリン トに書くことができた。	4	3	2	1
	1-④ 学習した内容が、どんな内ようだった か分かった。	4	3	2	1
	1-⑤ 自分の考えを、クラスの友だちに分か りやすく話すことができた。	4	3	2	1
	1-⑥ 授業中は、席に着いて学習した。	4	3	2	1
生 活	2-① 学校生活のきまりや交通ルール、友だ ちとの約束を守った。	4	3	2	1
	2-② 学校の先生、友だち、近所の人に、て いねいな言葉を使った。	4	3	2	1
	2-③ ふれあいタイムで、ちがう学年の人と 協力することができた。	4	3	2	1
	2-④ 年下の子を大事にし、年下の子からし たわれたり、たよられたりした。	4	3	2	1
	2-⑤ 廊下を正しく歩いた。	4	3	2	1
	2-⑥ 学校の先生、友だち、近所の人に、気 もちのよいあいさつをした。	4	3	2	1
	2-⑦ おしゃべりをせずに、しっかりとそう じをした。	4	3	2	1

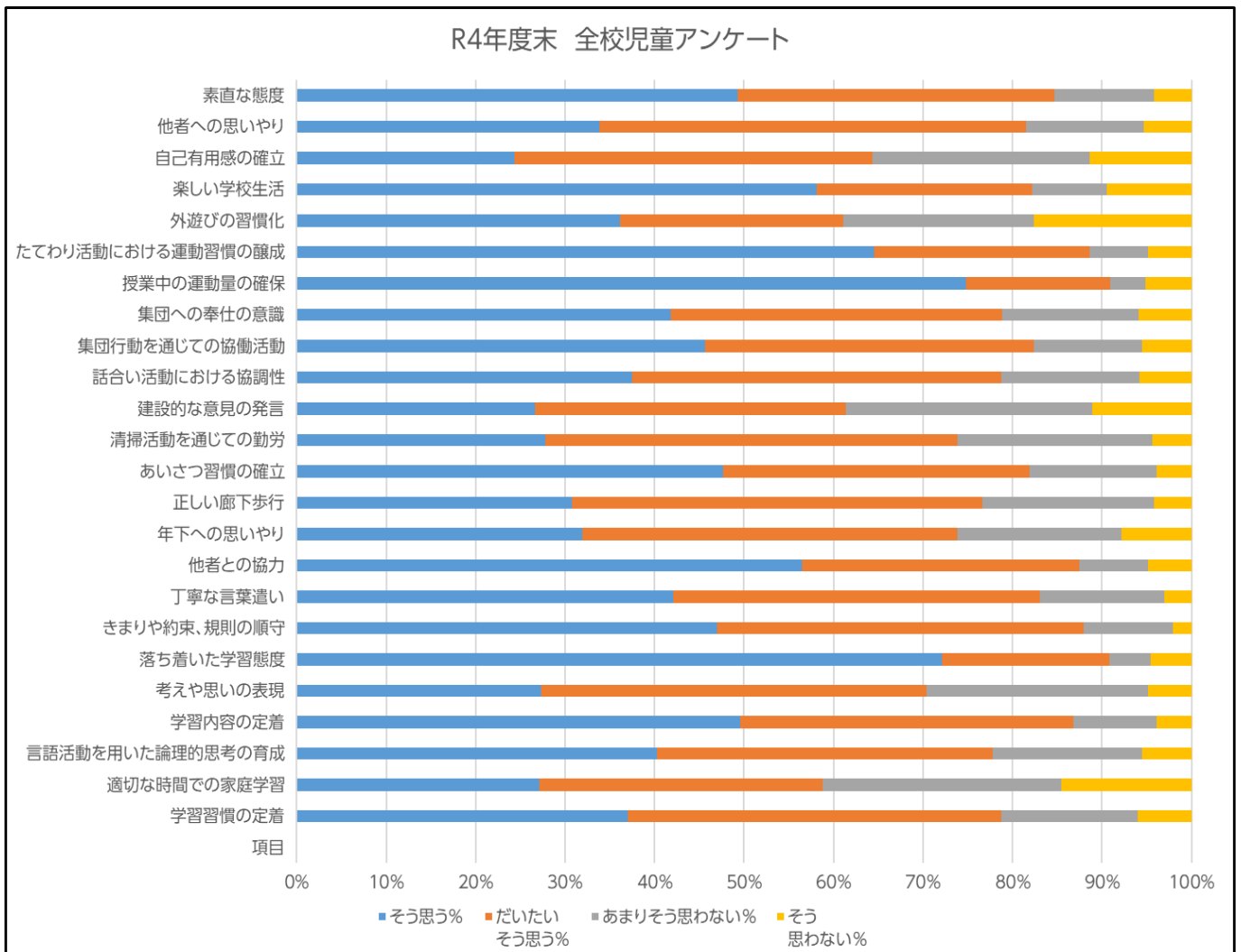
なまえ ()

仲間・健康	3-①	学級会で、よく考えて自分の意見を言った。	4	3	2	1
	3-②	人の意見をよく聞いてから、自分の意見を言った。	4	3	2	1
	3-③	ふれあいタイムでは、みんなで仲よく遊ぶには、どうしたら良いかを考えて行動できた。	4	3	2	1
	3-④	気持ちよく学校生活を送るためには、どうしたら良いかを考えて、委員会活動を行った。	4	3	2	1
	3-⑤	体育の時間には、しっかりと体を動かして運動した。	4	3	2	1
	3-⑥	ふれあいタイムでは、楽しみながら体を動かした。	4	3	2	1
	3-⑦	休み時間には、外に出て遊んだり、体を動かしたりした。	4	3	2	1
学校	4-①	学校は楽しい。	4	3	2	1
	4-②	自分は、人の役にたっていると思う。	4	3	2	1
	4-③	相手の気持ちを考えて、行動している。	4	3	2	1
	4-④	注意されたときは、素直に話を聞くことができる。	4	3	2	1
		困ったことがあれば 書きましょう。				

R4年度末 全校児童アンケート

分類	番号	全校		そう思う%	だいたい そう思う%	あまりそう 思わない%	そう 思わない%
		項目					
学習	1-①	学習習慣の定着		37	42	15	6
	1-②	適切な時間での家庭学習		27	32	27	15
	1-③	言語活動を用いた論理的思考の育成		40	38	17	6
	1-④	学習内容の定着		50	37	9	4
	1-⑤	考えや思いの表現		27	43	25	5
	1-⑥	落ち着いた学習態度		75	19	5	5
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守		47	41	10	2
	2-②	丁寧な言葉遣い		42	41	14	3
	2-③	他者との協力		56	31	8	5
	2-④	年下への思いやり		32	42	18	8
	2-⑤	正しい廊下歩行		31	46	19	4
	2-⑥	あいさつ習慣の確立		48	34	14	4
	2-⑦	清掃活動を通じての勤労		28	46	22	4
仲間・健康	3-①	建設的な意見の発言		27	35	28	11
	3-②	話し合い活動における協調性		38	41	16	6
	3-③	集団行動を通じての協働活動		46	37	12	6
	3-④	集団への奉仕の意識		42	37	15	6
	3-⑤	授業中の運動量の確保		75	16	4	5
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成		65	24	6	5
	3-⑦	外遊びの習慣化		36	25	21	18
学校	4-①	楽しい学校生活		58	24	8	9
	4-②	自己有用感の確立		24	40	24	11
	4-③	他者への思いやり		34	48	13	5
	4-④	素直な態度		49	35	11	4

R4年度末 全校児童アンケート



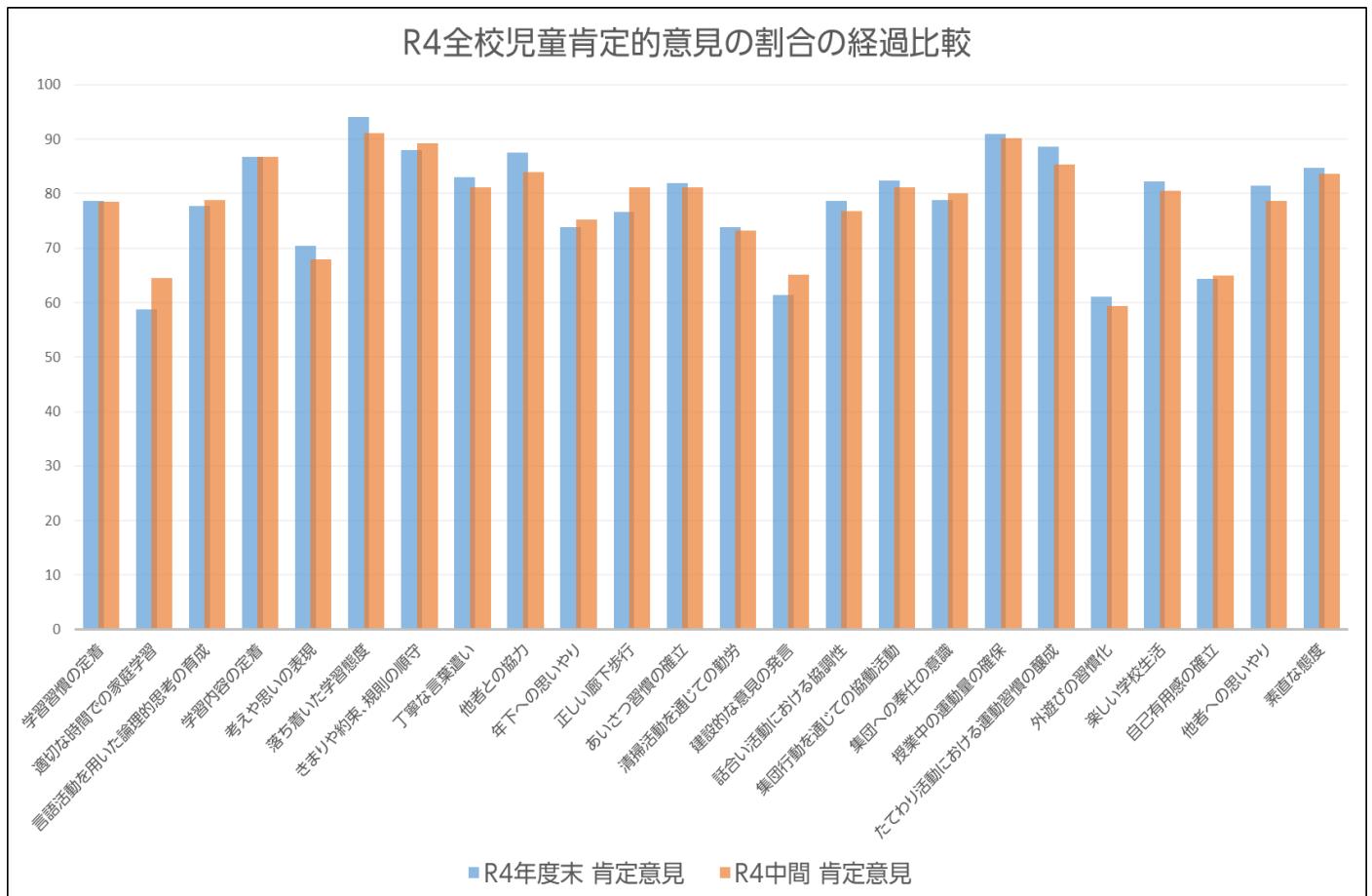
児童アンケートの考察

R4年度 全校児童肯定的意見の割合の経過比較

分類	番号	項目	R4年度末	R4中間	R4年度末	R4中間
			肯定意見	肯定意見	否定意見	否定意見
学習	1-①	学習習慣の定着	79	78	21	22
	1-②	適切な時間での家庭学習	59	64	41	36
	1-③	言語活動を用いた論理的思考の育成	78	79	22	21
	1-④	学習内容の定着	87	87	13	13
	1-⑤	考えや思いの表現	70	68	30	32
	1-⑥	落ち着いた学習態度	94	91	10	9
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	88	89	12	11
	2-②	丁寧な言葉遣い	83	81	17	19
	2-③	他者との協力	88	84	13	16
	2-④	年下への思いやり	74	75	26	25
	2-⑤	正しい廊下歩行	77	81	23	19
	2-⑥	あいさつ習慣の確立	82	81	18	19
	2-⑦	清掃活動を通じての勤労	74	73	26	27
仲間・健康	3-①	建設的な意見の発言	61	65	39	35
	3-②	話し合い活動における協調性	79	77	21	23
	3-③	集団行動を通じての協働活動	82	81	18	19
	3-④	集団への奉仕の意識	79	80	21	20
	3-⑤	授業中の運動量の確保	91	90	9	10
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	89	85	11	15
	3-⑦	外遊びの習慣化	61	59	39	41
学校	4-①	楽しい学校生活	82	81	18	19
	4-②	自己有用感の確立	64	65	36	35
	4-③	他者への思いやり	81	79	19	21
	4-④	素直な態度	85	84	15	16

改善が見られた項目（10ポイント以上の上昇）	肯定的意見の割合が90～100
改善が見られた項目（10ポイント未満の上昇）	肯定的意見の割合が80～89
改善が必要な項目（否定意見の割合が高く、下降）	否定意見の割合が41以上
	否定意見の割合が31～40
	否定意見の割合が21～30

・今回の年度末アンケートで児童の肯定的意見が比較的に高い割合だった項目は、中間期に比べ1つ減って12項目となった。「学習内容の定着」「落ち着いた学習態度」「きまりや約束、規則の順守」「他者との協力」「授業中の運動量の確保」「たてわり活動における運動習慣の醸成」「素直な態度」の7つは、いずれも85%以上の児童が肯定的な評価をしている。その中でも、「落ち着いた学習態度」「授業中の運動量の確保」は9割以上の児童が肯定的な評価をしている。授業を効果的に進めるためには、学習規律が整っていることが必要不可欠であるが、本校の児童はほとんどの児童が落ち着いて学習に臨むことができている、その点では達成が見られたと思われる。「きまりや約束、規則の順守」については、昨年度のアンケートでも肯定的意見の割合は高いものの、9割には届かなかった項目である。今年度は昨年度末に比べ1ポイント上昇しており、『学校生活のきまり』や『交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ』を用いて、ルールやマナーを守ることの大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを理解させる。』については、今年度の教育活動において目標を達成したといえる。しかしながら、一昨年度のアンケートでは、「きまりや約束、規則の順守」は、肯定的意見の割合が90%を超えていたことを踏まえて考えると、まだまだ注意が必要で、今後の教育活動において、継続して改善を図っていかねばならないと思われる。「他者との協力」については、中間期に比べて肯定意見が4ポイント上昇し、「他者への思いやり」については2ポ



イント上昇して改善が見られた。中間期の結果を踏まえて、道徳や学級活動、委員会活動やたてわり活動など、あらゆる教育活動を通じて指導してきたことが結果につながったと考える。次世代を生きる児童には、他者と協働する力が求められている。児童が小学生の時から未来を見据え、このような力が身に付けられるように、今後も継続して支援にあたりたい。

・否定的意見が高い割合だった項目は、「適切な時間での家庭学習」「建設的な意見の発言」「外遊びの習慣化」「自己有用感の確立」4項目であった。これらの項目のうち「外遊びの習慣化」を除く3項目については、昨年度も否定的意見の割合が高く、俵口小学校の教育活動を推進するうえで重点課題であると考える。今年度の全国学力・学習状況調査の結果から、生駒市の教育課題として自己肯定感や自主性の醸成が挙げられており、本校の教育課題と合致する。しかし、家庭学習時間については、生駒市の平均は全国や奈良県と比べ長いという結果であり、本校の児童は、市内の他校の児童と比べて、家庭学習時間といった点で課題が見られるといえる。そこで、昨年度の課題を受けて今年度は年度当初に「家庭学習のてびき」を各家庭に配布し、学校だより「ほうそうげ」で周知を図った。また、各学年で取り組む家庭学習例を所要時間と共に示したガイドラインを作成して教員間で共有し、改善に向けた取組を進めてきた。しかし、結果は、肯定評価が昨年度末よりも低いものとなってしまった。しかも、中間期よりも5ポイント下降しており、この項目については、PDCAサイクルが上手く機能していなかったと言わざるを得ない。取組の改善を早急に図っていかねばならないと考える。「建設的な意見の発言」は、中間期は、昨年度末と比べ2ポイント上昇していたが、今年度末の評価では中間期より4ポイント下降し、昨年度末よりも2ポイント下降した結果となった。「適切な時間での家庭学習」と同じく、中間期での考察が取組の改善に結びついておらず、早急な改善が必要である。学級会で発表するためには、参加者である児童が、学級会の内容を理解している必要がある。そのためには学級会運営の前に下準備が必要となるが、その準備段階が上手く機能していないということも原因の一つとして考えられる。教員が学級会運営についての研鑽を積むとともに、日々の授業や学級会をはじめとした特別活動、委員会活動やクラブ活動、たてわ

り活動などあらゆる教育活動において、児童に考えや思いを表出させ、児童の思考力・判断力・表現力の育成に重点を置いた教育活動を実践することを意識して取り組んでいきたい。「外遊びの習慣化」は、中間期と比べて 2 ポイント改善したものの、昨年度末と比べ、13 ポイントと大幅に下降した項目である。3 年生以上の学年はすべて、昨年度末の評価よりも肯定的意見の割合が下回っており、下げ幅も、3 年生が 22 ポイント、5 年生が 26 ポイントと大きいものとなった。体力向上のために、体育部からは体力向上プランが示されており、そこには外遊びでの運動の日常化が記されているが、最低でも週一回は学級遊びを完全実施するなどして、改善を図らなければならないと考える。「自己有用感の確立」は、36%の児童が否定的な回答をしている。「自己有用感の確立」の項目については、4 つの学年で否定的意見の割合が高くなっている。特に 6 年生は、半数近くが否定的な評価をし、4、5 年生は 4 割近くが否定的な評価をしている。今年度は、「高学年として自覚をもって委員会活動を行っているか」という項目で肯定的評価をしている児童が昨年度と比較して減少しているが、このことも原因の一つとして考えられる。委員会活動やクラブ活動、たてわり活動などで高学年の児童へ支援を行い、自己有用感の獲得につなげたい。また、3、4 年生も否定的意見の割合が高い。児童一人一人に学びの達成感を味わわせて自己を認められるように、教科学習も含めた教育活動全般において支援をしていきたいと考える。

・中間期と比較して改善が見られた項目は 24 項目中 15 項目であった。今年度は、昨年度のように 10 ポイント以上の大幅な改善ではなく、15 項目で 1 から 4 ポイントの改善が見られた。改善された項目である「学習習慣の定着」「考えや思いの表現」「落ち着いた学習態度」「丁寧な言葉遣い」「他者との協力」「あいさつ習慣の確立」「清掃活動を通じての勤労」「話し合い活動における協調性」「集団行動を通じての協働活動」「授業中の運動量の確保」「たてわり活動における運動習慣の醸成」「外遊びの習慣化」「楽しい学校生活」「他者への思いやり」「素直な態度」の教育内容については、中間期での評価を活かし、特に注力して教育活動がなされたものと考えられる。このことから、児童アンケートを活用した学校評価の PDCA サイクルはしっかりと機能し、中間期での評価を生かした教育活動が展開されたたものと思われる。その一方で、改善が見られなかった「言語活動を用いた論理的思考」「きまりや約束の順守」「年下への思いやり」「正しい廊下歩行」「集団への奉仕の意識」の 5 項目では、1 から 4 ポイント肯定意見の下降が見られた。また、「適切な時間での家庭学習」「建設的な意見の発言」「自己有用感の確立」の 3 項目については、否定意見が 3 割以上で改善が必要な項目であるにも関わらず、1 から 5 ポイントの後退が見られる。改善が必要な項目について改善が図られなかったばかりでなく、後退という結果を招いてしまった点については結果を真摯に受け止めて反省が必要であり、改善に向けた取組を早急に行う必要がある。その中でも「自己有用感の確立」については、本校のみならず、市や県、国でも継続しての課題である。改善に向けて、児童自身が自己を肯定的に捉えることができない原因に迫る必要があると考える。「自己有用感の確立」「適切な時間での家庭学習」「建設的な意見の発言」については、次年度への重点継続課題としたい。

・肯定的意見の割合が高い項目が一番多い学年は 1、2 年生で、18 項目で肯定的な評価をしている。特に 2 年生は、そのうち肯定評価が 9 割をこえているものが 7 項目もあり、全校で一番肯定的評価が高かった学年である。また 3 年生は、昨年度 2 年生のときには、肯定的意見の割合が高かった項目が少なく 3 項目しかなかったが、今年度は肯定的な評価をしている項目が 14 項目に増え、大幅な改善が見られた。学年が上がるにつれて、肯定的意見の割合が高い項目が減る傾向にあるのは例年通りであるが、4 年生の肯定的評価が 5 年生のそれよりも少ないことは、注意が必要で改善を図るべき事象であると考えられる。

児童アンケート各項目の考察

R4年度末 各学年及び全校児童アンケート

分類	番号	項目	肯定的意見(%)						否定的意見(%)							
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
学習	1-①	学習習慣の定着	81	87	83	77	75	71	79	19	13	17	23	25	29	21
	1-②	適切な時間での家庭学習	73	76	71	53	49	38	59	27	24	29	47	51	62	41
	1-③	言語活動を用いた論理的思考の育成	80	87	83	73	72	74	78	20	13	17	27	28	26	22
	1-④	学習内容の定着	85	89	83	82	87	91	87	15	11	17	18	13	9	13
	1-⑤	考えや思いの表現	76	79	82	68	63	59	70	24	21	18	32	37	41	30
	1-⑥	落ち着いた学習態度	95	89	88	94	94	91	94	5	11	12	6	6	9	10
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	85	92	88	90	89	85	88	15	8	12	10	11	15	12
	2-②	丁寧な言葉遣い	88	88	86	89	80	73	83	12	12	14	11	20	27	17
	2-③	他者との協力	93	93	85	87	89	80	88	7	7	15	13	11	20	13
	2-④	年下への思いやり	83	78	77	60	73	73	74	17	22	23	40	27	27	26
	2-⑤	正しい廊下歩行	85	88	71	65	72	78	77	15	12	29	35	28	22	23
	2-⑥	あいさつ習慣の確立	78	93	75	79	86	78	82	22	7	25	21	14	22	18
	2-⑦	清掃活動を通じての勤労	81	83	78	69	65	69	74	19	17	22	31	35	31	26
仲間・健康	3-①	建設的な意見の発言	78	83	54	52	54	51	61	22	17	46	48	46	49	39
	3-②	話し合い活動における協調性	88	82	83	66	76	78	79	12	18	17	34	24	22	21
	3-③	集団行動を通じての協働活動	86	88	72	82	84	81	82	14	12	28	18	16	19	18
	3-④	集団への奉仕の意識					80	78	79					20	22	21
	3-⑤	授業中の運動量の確保	95	93	94	90	91	85	91	5	7	6	10	9	15	9
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	97	93	91	89	78	87	89	3	7	9	11	22	13	11
	3-⑦	外遊びの習慣化	88	76	68	68	43	37	61	12	24	32	32	57	63	39
学校	4-①	楽しい学校生活	93	92	83	66	78	80	82	7	8	17	34	22	20	18
	4-②	自己有用感の確立	78	72	69	58	61	53	64	22	28	31	42	39	47	36
	4-③	他者への思いやり	83	89	83	76	82	76	81	17	11	17	24	18	24	19
	4-④	素直な態度	85	92	82	84	82	84	85	15	8	18	16	18	16	15
	改善が必要な項目		肯定的意見の割合が90～100							否定的意見の割合が41以上						
	改善が必要でない項目		肯定的意見の割合が80～89							否定的意見の割合が31～40						
										否定的意見の割合が21～30						

学習

【1-①学習習慣の定着】

・昨年度は2年生と5年生で達成率が80%に満たなかったものの、他の4学年では高い達成率であり、中でも1年生は97%という非常に高い達成率であった。しかし、今年度末、達成率が80%以上だった学年は1～3年生の3学年にとどまり、全校の達成率も昨年度末と比較して4ポイント下降している。中でも1年生の達成率が例年と比較して低く、注意が必要である。朝の学習や家庭学習を忘れずに行うことは、学習を進めるうえでの基本であり、必ず身に付けなければならない資質である。家庭の協力を得ながら改善を図っていききたい。

【1-②適切な時間での家庭学習】

・昨年度に引き続き、達成率が低い項目である。1～3年生でも達成率が80%に届かず、4年生以上の高学年では達成率が半分近くかそれ以上、達成できていないという結果になった。特に6年生は、達成率が4割を満たしていない。昨年度の学校評価の結果より、今年度は改善を図るべく「家庭学習のてびき」を発行して家庭へ啓発したり、各学年で家庭学習のガイドラインを定めて取組を進めたりしてきたが、結果に結びつかなかった。適切な時間で家庭学習を行うという習慣を身に付けておくことは、児童が上級学校へ進学した際に必要不可欠なことであり、その点を保護者にも十分に理解してもらう必要があると考える。学級懇談会や個人懇談、学校だよりや学年通信等での家庭への啓発をより一層強化するとともに、ガイドラインの見直しも図っていききたい。

【1-③言語活動を用いた論理的思考の育成】

・昨年度と比べ、2年生では大幅に改善が図られたが、全体としては達成率が80%を超えた学年が4学年から3学年へと減少、全校の達成率も81%から3ポイント下降した。「書く活動」は論理的思考の育成だけでなく、学習指導要領で説かれている深い学びの習得にも効果的である。今後、学習活動において、ますます「書く活動」を取り入れていかなければならないと考える。タブレット端末のテキスト機能の活用といった新しい形態も含め、「書く活動」を授業中に取り入れることで、論理的思考を授業で具現し、思考力・判断力の育成を図っていききたい。

【1-④学習内容の定着】

・学習内容の定着については、全ての学年では8割以上の児童が肯定的に回答しており、6年生は91%以上の児童が肯定的に回答していることから、十分に達成がされたと考えられる。日々の学習活動において、基礎・基本の習得を徹底させてきた結果であると思われる。また、ICTを活用した授業が、児童の学びをスムーズにしていることも要因の一つと思われる。ほとんどの学年で達成されているが、昨年度と比較して中学年で達成率が下降しているため、進級するまでに既習事項の復習に注力し改善を図りたい。

【1-⑤考えや思いの表現】

・中間期に比べて2ポイントの改善が図られたものの、昨年度に引き続き達成率の伸びが低い項目である。達成率を比較すると昨年度とほぼ変わらないが、各学年での達成率のばらつきは是正されており、全校的には改善が図られたと思われる。4年生以上の学年で達成率が低いのは、児童の発達段階的に見て考えられなくもないが、1年生の達成率が低いことは注意しなければならないと考える。まずは、学級が児童にとって安心して自身を表出できる場になっているかを振り返り、学級活動等においてSSTやエンカウンターなどの活動を取り入れるなどして、児童にとって学級が安心できる場となるようにしていきたい。そのうえで、児童が自分の考えや思いを表現できる場を意図的に創り出すことを考えていきたい。

分類	全校肯定的意見の経年比較				R4年度末	R3年度末	R4年度末	R3年度末
	番号	項目	肯定意見%	肯定意見%	否定意見%	否定意見%	否定意見%	
学 習	1-①	学習習慣の定着	79	83	21	17		
	1-②	適切な時間での家庭学習	59	64	41	36		
	1-③	言語活動を用いた論理的思考の育成	78	81	22	19		
	1-④	学習内容の定着	87	87	13	13		
	1-⑤	考えや思いの表現	70	71	30	29		
	1-⑥	落ち着いた学習態度	94	93	10	7		
生 活	2-①	きまりや約束、規則の順守	88	87	12	13		
	2-②	丁寧な言葉遣い	83	86	17	14		
	2-③	他者との協力	88	91	13	9		
	2-④	年下への思いやり	74	76	26	24		
	2-⑤	正しい廊下歩行	77	76	23	24		
	2-⑥	あいさつ習慣の確立	82	84	18	16		
	2-⑦	清掃活動を通じての勤労	74	76	26	24		
仲 間 ・ 健 康	3-①	建設的な意見の発言	61	63	39	37		
	3-②	話し合い活動における協調性	79	77	21	23		
	3-③	集団行動を通じての協働活動	82	83	18	17		
	3-④	集団への奉仕の意識	79	91	21	9		
	3-⑤	授業中の運動量の確保	91	91	9	9		
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	89	90	11	10		
	3-⑦	外遊びの習慣化	61	74	39	26		
学 校	4-①	楽しい学校生活	82	85	18	15		
	4-②	自己有用感の確立	64	61	36	39		
	4-③	他者への思いやり	81	81	19	19		
	4-④	素直な態度	85	82	15	18		
		改善が見られた項目（10ポイント以上の上昇）			肯定的意見の割合が90～100			
		改善が見られた項目（10ポイント未満の上昇）			肯定的意見の割合が80以上			
		改善が必要な項目（否定意見の割合が高く、下降が横ばい）			否定意見の割合が41以上			
		注意が必要な項目（5ポイント以上の下降）			否定意見の割合が31以上			
					否定意見の割合が21～30			

【1-⑥落ち着いた学習態度】

・全学年で高評価であるうえに、全校評価は中間期から3ポイント上昇した。授業を効果的に進めるためには、学習規律が整っていることが必要不可欠であり、その点ではある一定の達成は見られたと思われる。4年生以上の高学年で達成率が9割以上の高評価であることを考えると、低学年からの指導の積み重ねが、よい学習習慣の獲得につながっていると思われる。今後も児童が落ち着いて学習に取り組めるよう、学習環境の整備に努めていきたい。

生活

【2-①きまりや約束、規則の順守】

・全ての学年で中間期と比べると肯定的意見の割合が高く、達成されていると思われる。しかしながら、昨年度と比べると1ポイント、一昨年度と比べると2ポイント肯定的意見の割合が減っている。児童の様子を見ていると、廊下歩行や制服の正しい着用など、学校生活においてきちんとできていないことも見受けられる。引き続き全教職員で児童を見守り支援していくとともに、家庭とも連携していきたい。

【2-②丁寧な言葉遣い】

・中間期と比べて達成率が2ポイント上昇し、学年間で差はあるものの全体的に肯定的意見の割合が高い。このことから、本校の児童は時と場に応じた受け答えはできてきていると思われ、ほぼ達成できている項目であると言える。日々の学校生活においてその都度、指導してきた結果であると考えられる。しかしながら、昨年度と比べると達成率が3ポイント下降しており、注意が必要である。引き続き、指導の継続を図っていきたい。

【2-③他者との協力】

・中間期と比べて達成率が4ポイント上昇したものの、昨年度末の評価には3ポイント届かなかった。しかしながら、全体的に肯定的意見の割合が高く、達成できている項目であると思われる。引き続き、たてわり班活動や委員会活動、クラブ活動等を通じて、児童へ他者と協力することの意義を始動していきたい。

【2-④年下への思いやり】

・達成率が中間期と比較して1ポイント、昨年度末と比較して2ポイント下降した。2、3年生では昨年度と比べ改善されているが、1、4、6年生では、昨年度と比べて達成率が10ポイント以上下降しており、改善が必要な項目であると思われる。コロナ禍において、1年生が幼児と交流する機会が持てなかったことも原因の一つとして考えられる。来年度は、コロナ対応も転換されることが予想されることから、ますます保幼小の連携の充実を図り、児童に思いやりの心を育てていきたい。また、たてわり班活動の充実を図り、道徳等で思いやりについて学習するなど、改善に向けた取組の充実を図りたい。

【2-⑤正しい廊下歩行】

・1、2年生は肯定的意見の割合が高いが、4年生は否定的意見の割合が高い。昨年度末と比較して達成率は1ポイント上昇したが、中間期と比較すると4ポイント下降している。生活向上委員会等が、廊下に「止まれ」の文字を示すなど正しい廊下歩行についての啓発運動を行ったが、依然、大幅な改善には至っ

ていない。「正しい廊下歩行」は本校の生徒指導の重点目標の一つであり、今後も継続して改善を図っていききたい。

【2-⑥あいさつ習慣の確立】

・全校の肯定的意見の割合は 82%であるが、学年間で評価にばらつきがある。肯定的意見の割合が、2年生は 93%、5年生は 86%であるが、それ以外の学年は 70%台にとどまっている。特に1年生は、例年、高評価の場合が多いが、今年度は昨年度と比較して 15 ポイント下回った評価であった。望ましいコミュニケーション力の獲得に、あいさつは重要な要素の一つである。自ら進んであいさつができる児童の育成のために、今後も家庭や地域と連携して教育活動を展開していききたい。

【2-⑦清掃活動を通じての勤労】

・1、2年生は8割を超える児童が肯定評価しているが、それ以外の学年については、肯定的意見の割合が 6割台から 7割台であった。児童の様子を見てみると、おしゃべりせずに掃除するもくもく清掃は、浸透してきていると思われる。今後も指導を継続し、隅々までしっかりと清掃活動ができるように児童を支援していききたい。そして、しっかりと掃除をすることで他の人の役に立っているということを実感させ、児童の自己有用感を育てていききたい。

仲間・健康

【3-①建設的な意見の発言】

・達成率は、昨年度と比べて 2 ポイント、中間期と比べて 4 ポイント下降している。1、2年生を除く学年の達成率は 5割程度であり、改善を図らなければならない項目であると考え。まずは各々の教員が学級会をきちんと確保して児童が自分の意見を述べる場を設定すると共に、すべての児童が学級会で自信を持って発言できるような仕組みを整えるなどの改善を図っていききたい。次年度への継続課題としたい。

【3-②話し合い活動における協調性】

・達成率は、昨年度、中間期と比べていずれも 2 ポイント上昇して改善が図られている。全校の肯定的意見の割合は 79%で、概ね達成されている項目であるが、4年生の達成率がほかの学年に比べて低く、学年間の評価で若干のばらつきがみられる。話し合い活動においては、自分の考えを分かりやすく相手に伝えることが必要であるが、それ以上に相手の話をしっかりと聞いて状況を正しく理解・判断することが大切である。しっかりと相手の話を聞くということは、思考力・判断力の育成にも関わることであり、今後の教育活動においてその点にも注意して指導をしていきたい。

【3-③集団行動を通じての協働活動】

・全校の肯定的意見の割合が 82%であり、達成できている項目といえる。達成率は、昨年度と比べると 1 ポイント下降したが、中間期と比べると 1 ポイント上昇しており、中間期の評価を受けて改善が試みられたと思われる。肯定的意見の割合が、3年生だけが7割台であった。次年度はどの学年も肯定的意見の割合が 8割に達するよう、全校的に改善の取組を進めたい。

【3-④集団への奉仕の意識】

・肯定的意見の割合が、昨年度と比べて 12 ポイント、中間期と比べても 1 ポイント下降しており、改善が

必要な項目である。本校の児童は、自己肯定感の面で課題を抱えている。高学年としての自覚を持って委員会活動に参加することで、自己有用感を味わわせ、自己肯定感を獲得させていく必要があると考える。次年度への継続課題とし、改善に向けて取り組んでいきたい。

【3-⑤授業中の運動量の確保】

今年度も、昨年度と同様にすべての学年で肯定的意見の割合が高く、達成できていると思われる。引き続き、体育の学習においてしっかりとした運動量を確保し、児童の体力向上を図っていきたい。

【3-⑥たてわり活動における運動習慣の醸成】

・全校の肯定的意見の割合が 89%であり、達成できている項目といえる。達成率は、昨年度と比べて 1 ポイント下降したものの、中間期と比べると 3 ポイント上昇しており、中間期の結果を踏まえたうえで取組の改善が図られたものと思われる。学年間の評価のばらつきをなくすことで、全体の改善を図っていきたい。

【3-⑦外遊びの習慣化】

・肯定的意見の割合が 61%であり、改善が必要な項目である。中間期に比べて達成率は 2 ポイント上昇したものの、大幅な改善には結びつかなかった。3 年生以上は達成率が 7 割に届かず、5 年生は 43%、6 年生はわずか 37%である。体力向上の観点からも、また、外遊びで適度に体を動かすことによって気持ちを切り替えて、その後の学習に集中して取り組むという点でも、外遊びの習慣化を達成させていかなければならないと考える。学級遊びの設定や、体育委員会が企画運営している全校での運動遊びの回数を増やすなど、改善に向けた取組も模索していきたい。ただ、高学年は委員会活動やその他の活動等で忙しい場合もあるので、その点を考慮しながら改善を図らなければならないと考える。

学校

【4-①楽しい学校生活】

・肯定的意見の割合が 82%であり、ほぼ達成できていると思われる。しかし、学年間で評価にばらつきが見られ、達成率が 1 番高い学年と 1 番低い学年の間には 27 ポイントの開きがある。結果についてその原因を特定し、改善を図る必要があると考える。また、全校児童の 18%の児童は否定的な意見を持っており、また、昨年度末に比べて 3 ポイントの下降が見られ、注意が必要である。「楽しくない原因はどこにあるのか」といったことを常に問いかけ、児童の様子を注意深く見守る必要があると思われる。

【4-②自己有用感の確立】

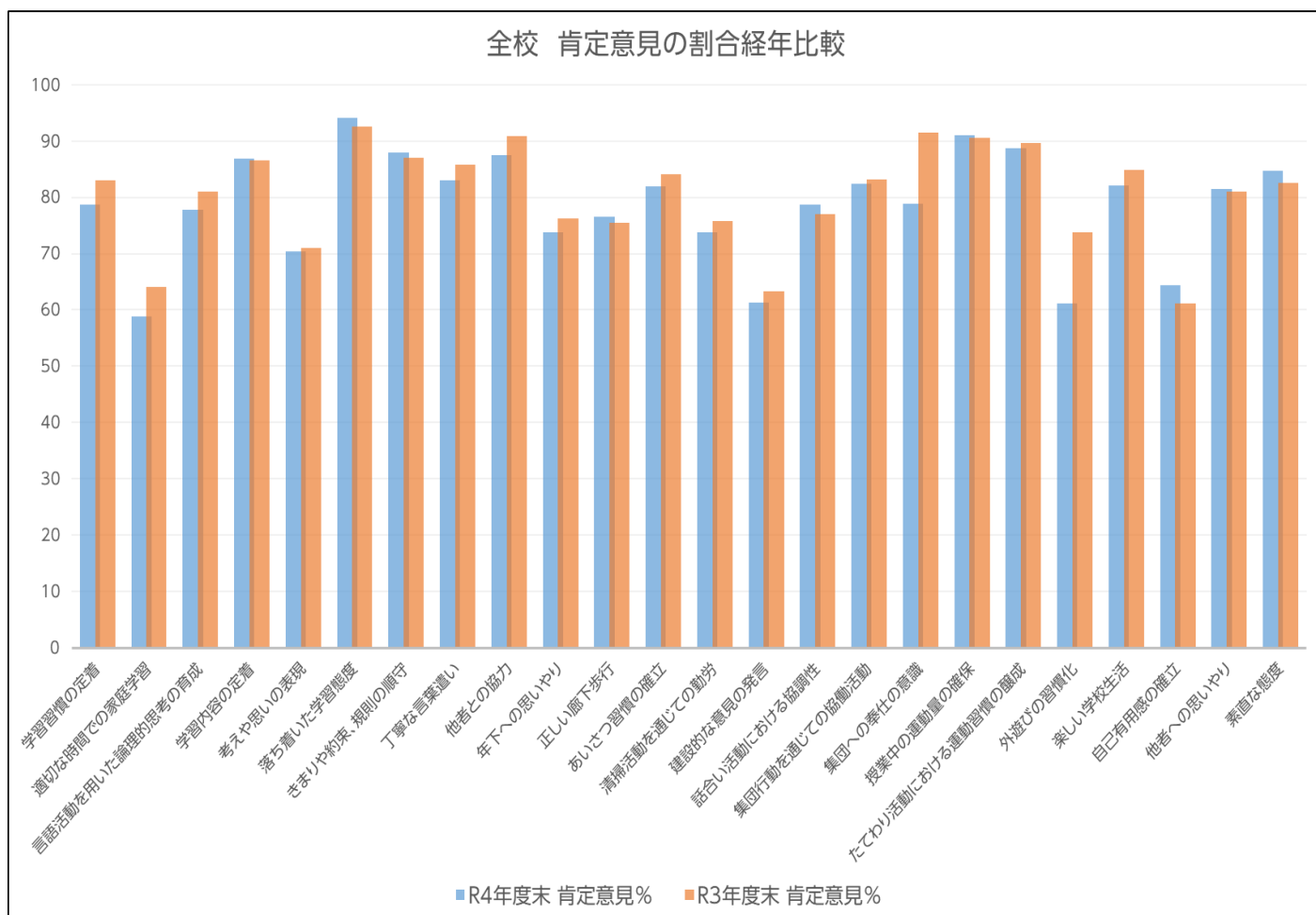
・達成率が、中間期と比べて 1 ポイント下降し、昨年度と比べて 3 ポイント上昇した。しかし、否定的意見の割合が高く、昨年度に引き続き今後の教育活動において改善が必要である。特に 6 年生は、半数近くが否定的な評価をし、4、5 年生は 4 割近くが否定的な評価をしている。今年度は、「高学年として自覚をもって委員会活動を行っているか」という項目で肯定的評価をしている児童が昨年度と比較して減少しているが、このことも原因の一つとして考えられる。委員会活動やクラブ活動、たてわり活動などで高学年の児童へ支援を行い、自己有用感の獲得につなげたい。また、3、4 年生でも否定的意見の割合が高い。児童一人一人が自己を認められるように、教科学習も含めた教育活動全般において支援をしていく必要があると考える。

【4-③他者への思いやり】

・全校の肯定的意見の割合が、中間期と比べて 3 ポイント上昇して昨年度と同じ 81%になり、概ね達成できている項目といえる。しかし、4、6 年生は肯定的意見の割合が6割に届かず、学年間の評価にばらつきが見られる。一昨年度は、学年間での評価のばらつきが少なかったことを考えると、注意が必要であると考えられる。引き続き、年少者への思いやりも含め、他者への思いやりが育めるような教育活動の展開をしていきたい。

【4-④素直な態度】

・達成率が、中間期に比べ 1 ポイント、昨年度と比べて 3 ポイント上昇しており、達成された項目であるといえる。特に 2 年生は、肯定的意見の割合が 92%と高評価であった。また、それ以外の学年も肯定評価が 8 割以上であり、一昨年度の評価水準まで持ち直した。このことから、この項目については十分達成されたといえる。素直な態度をとることができる本校の児童の良さが今後も発揮されるよう、道徳や学級活動等を通じて指導するとともに、家庭や地域とも連携を継続していきたい。



R4年度学校評価 自己評価

名前 ()

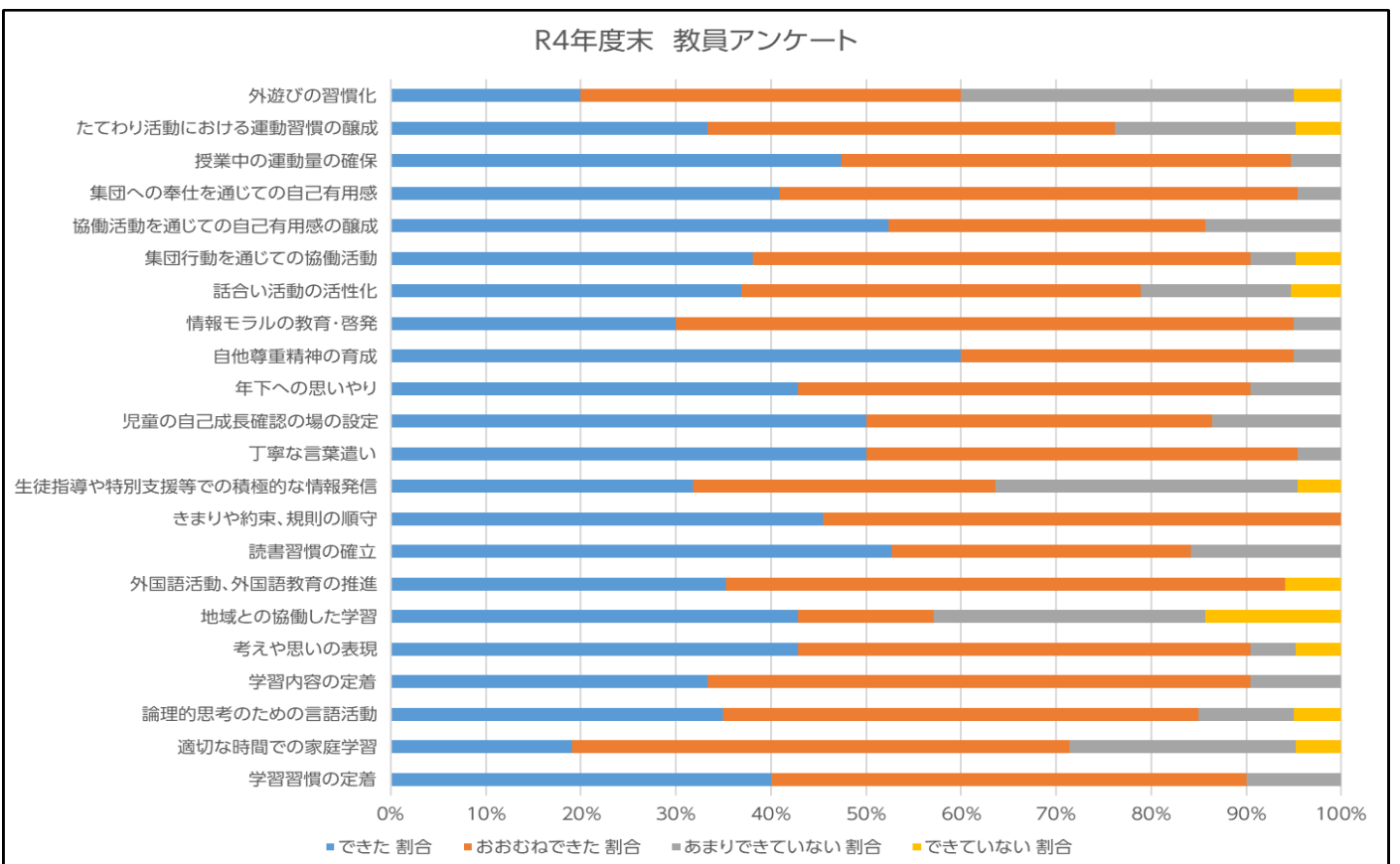
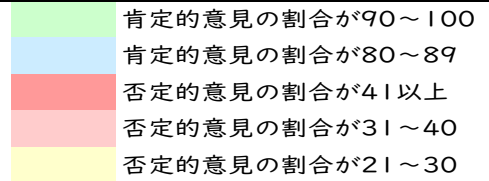
評価指数

4) できた 3) 概ねできた 2) あまりできていない 1) できていない

重点目標・重点課題			達成目標・評価指数	評価	
県	生駒市	本校			
知： 確かな 学力の 育成	1.課題の発見や解決に向けた主体的・対話的で深い学びの実現 2.地域と連携した協働活動の実現 3.グローバル時代に対応した英語教育の推進 7.読書活動の充実	考えをみがく	①基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため指導法の工夫に取り組む ②他者との交流しながら、考えを深める力を着実に育てる ③筋道を立てて考え表現する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める	基礎学力の定着を図るために、朝学習や家庭学習において、児童に漢字学習や計算練習、語句調べをさせることができた 「自主学習の手引き」により適切な学習時間を家庭に示し、児童や家庭に家庭学習の充実を促すことができた 「考える道徳」「議論する道徳」を実践するために、書くことで自らの考えを明確にし、それをそれぞれが表現し広めるという活動を取り入れることができた 考えを深める力を着実に育てるために、学習においてめあてを提示して学びの焦点化を図り、学習の振り返りを設定することができた 学習活動において、考えたことをノートやプリントにまとめ、それを整理して分かりやすく友達に伝えるような活動を設定することができた	
		地域と連携した協働活動を実現し、多様な教育活動を展開する	地域人材を用いた体験的学習等を通じて児童に学ぶ意欲を持たすことができた		
		外国語や外国文化に興味関心を持たせ、進んでコミュニケーションをとろうとする態度を養う	主指導者としてALTなどと協力し、体験的な活動を通して児童に外国語や外国文化に興味関心を持たせ、進んでコミュニケーションをとるように指導することができた		
		読書活動の充実を図り、読書習慣を育む	児童に家庭でも読書する習慣を身に付けさせるために、学校図書館を活用して読書への興味関心を持たせた		
		心をみがく	④児童に関する課題を共有し、全職員でルール徹底とマナーの育成に取り組む ⑤自己の成長を振り返り、よさを認め、実感できる取組を充実させる ⑥多様な交流・体験的学習を通して、互いを理解し認め合う大切さを学ばせる	「学校生活のきまり」や「交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ」を用いて、ルールやマナーを守ることの大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることの意味を理解させた 児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図ることができた 教育活動全般を通じて、相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導することができた ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動などで振り返りノートに記入する場面を設定し、自己の成長を確認したり他者の良さを認めたりする機会を設けた 思いやりの心を児童に育むために、ふれあいタイムなどの異学年交流や幼児との交流を通じて、立場の違う者への配慮の必要性を指導することができた	
		一人一人が大切にされる学級経営を行う	学級活動や道徳の時間を通じて、児童に自他を尊重する意識を持たすことができた		
		人権尊重の考えに基づき、情報モラルを向上させる	自他の人権を守るために、正しく情報機器を利用することの必要性を児童に指導し、家庭に啓発することができた		
徳： 豊かな 人間性 の 育成	2.地域と連携した協働活動の実現 4.規範意識や情報モラルを育成する道徳教育の充実 5.自尊感情の醸成 6.全ての児童の心の居場所づくり 8.幼稚園・保育園・こども園との接続ならびに中学校との連携	仲間とみがく	⑦話し合い活動を活性化し、自主的・自発的に問題を解決する力を伸ばす ⑧集団でのかかわりの場を通して社会性を育て、自己有用感を高める活動を工夫する	自主的・自発的に問題を解決するために、児童にとって身近な議題を学級会で設定し、話し合い活動を活性化させることができた ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動など、学校生活の様々な場面で児童らが話し合いをする機会を積極的に設け、協働的な課題解決の力を育てることができた ふれあいタイムの時間には、高学年児童がリーダーとして働くことができるような支援を行い、異学年の児童同士が互いに認めあい、自己有用感をもつことができるような指導をすることができた 委員会活動において、円滑な学校生活のためにはどのようにすべきかを考えさせて委員会活動を遂行させ、児童が自己有用感を味わうことができるように支援することができた	
		⑨「体づくり運動」の充実と、体力・運動能力向上の取組をすすめる	体育の授業で「体づくり運動」を実施し、児童らの体力向上を図ることができた たてわり活動を通じて、児童らの体力向上を図ることができた 外遊びを紹介したり学級遊びを実施したりして、児童が進んで外遊びに取り組むような環境整備を行うことができた		
		体： たくましい 心身の 育成			

R4年度末 教員アンケート

分類	番号	全教員	できた	おおむねできた	あまりできていない	できていない	肯定意見	否定意見
		項目	割合	割合	割合	割合	割合	割合
学習	1-①	学習習慣の定着	40	50	10	0	90	10
	1-②	適切な時間での家庭学習	19	52	24	5	71	29
	1-③	論理的思考のための言語活動	35	50	10	5	85	15
	1-④	学習内容の定着	33	57	10	0	90	10
	1-⑤	考えや思いの表現	43	48	5	5	90	10
		地域との協働した学習	43	14	29	14	57	43
		外国語活動、外国語教育の推進	35	59	0	6	94	6
		読書習慣の確立	53	32	16	0	84	16
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	45	55	0	0	100	0
		生徒指導や特別支援等での積極的な情報発信	32	32	32	5	64	36
	2-②	丁寧な言葉遣い	50	45	5	0	95	5
		児童の自己成長確認の場の設定	50	36	14	0	86	14
	2-④	年下への思いやり	43	48	10	0	90	10
		自他尊重精神の育成	60	35	5	0	95	5
		情報モラルの教育・啓発	30	65	5	0	95	5
仲間・健康	3-①	話し合い活動の活性化	37	42	16	5	79	21
	3-③	集団行動を通じての協働活動	38	52	5	5	90	10
	3-④	協働活動を通じての自己有用感の醸成	52	33	14	0	86	14
	3-④	集団への奉仕を通じての自己有用感	41	55	5	0	95	5
	3-⑤	授業中の運動量の確保	47	47	5	0	95	5
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	33	43	19	5	76	24
	3-⑦	外遊びの習慣化	20	40	35	5	60	40



教員アンケートの考察

・今回のアンケートで、教員の肯定的意見の割合が高かった項目は、「学習習慣の定着」「学習内容の定着」「考えや思いの表現」「外国語活動、外国語教育の推進」「きまりや約束、規則の順守」「丁寧な言葉遣い」「年下への思いやり」「自他尊重精神の育成」「情報モラルの教育・啓発」「集団行動を通じての協働活動」「集団への奉仕を通じての自己有用感」「授業中の運動量の確保」の12項目であり、90%以上の教員が肯定的に評価している。また、比較的肯定的意見の割合が高かった項目は「論理的思考のための言語活動」「読書習慣の確立」「児童の自己成長確認の場の設定」「協働活動を通じての自己有用感の醸成」の4つであり、80%以上の教員が肯定的に評価している。

・消極的意見が高い割合だった項目は、「地域と協働した学習」「生徒指導や特別支援等での積極的な情報発信」「外遊びの習慣化」の3項目であり、教員自身が取組に改善の余地があると感じている項目と思われる。「地域と協働した学習」は、中間期に比べて肯定的意見が2ポイント上昇し、昨年度よりも改善されているが、まだ肯定的意見が6割に満たない。特に、特別支援学級は、在籍している児童の特性から、なかなか単独で地域人材を活用した活動がしにくく、取組が進んでいないといった実情が明らかとなった。しかし、地域人材を活用することで、生活単元学習といった自立活動に、深まりや高まりを望むことも可能になることが考え

R4年度 教員肯定的意見の割合の経過比較

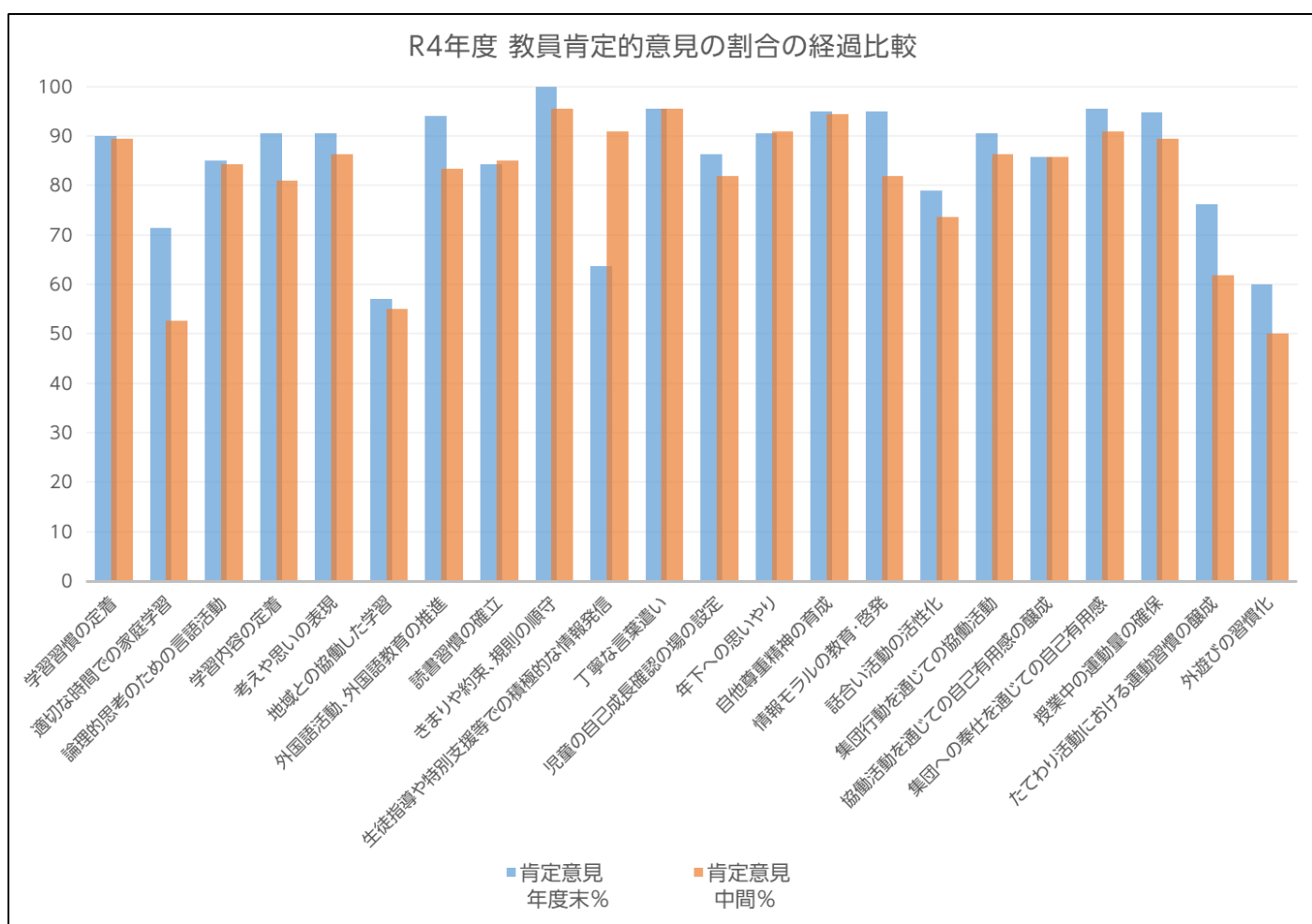
分類	番号	全教員		肯定意見	肯定意見	否定意見	否定意見
		項目		年度末%	中間%	年度末%	中間%
学 習	1-①	学習習慣の定着		90	89	10	11
	1-②	適切な時間での家庭学習		71	53	29	47
	1-③	論理的思考のための言語活動		85	84	15	16
	1-④	学習内容の定着		90	81	10	19
	1-⑤	考えや思いの表現		90	86	10	14
		地域との協働した学習		57	55	43	45
		外国語活動、外国語教育の推進		94	83	6	17
		読書習慣の確立		84	85	16	15
生 活	2-①	きまりや約束、規則の順守		100	95	0	5
		生徒指導や特別支援等での積極的な情報発信		64	91	36	9
	2-②	丁寧な言葉遣い		95	95	5	5
		児童の自己成長確認の場の設定		86	82	14	18
	2-④	年下への思いやり		90	91	10	9
		自他尊重精神の育成		95	94	5	6
		情報モラルの教育・啓発		95	82	5	18
仲 間 ・ 健 康	3-①	話し合い活動の活性化		79	74	21	26
	3-③	集団行動を通じての協働活動		90	86	10	14
	3-④	協働活動を通じての自己有用感の醸成		86	86	14	14
	3-④	集団への奉仕を通じての自己有用感		95	91	5	9
	3-⑤	授業中の運動量の確保		95	89	5	11
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成		76	62	24	38
	3-⑦	外遊びの習慣化		60	50	40	50

改善が見られた項目（10ポイント以上の上昇）	肯定的意見の割合が90～100
改善が見られた項目（10ポイント未満の上昇）	肯定的意見の割合が80～89
改善が必要な項目（否定意見の割合が高く、下降が横ばい）	否定的意見の割合が41以上
注意が必要な項目（5ポイント以上の下降）	否定的意見の割合が31～40
	否定的意見の割合が21～30

られる。特別支援教育に地域のリソースをいかに活用していくのか、という点を今後の本校の教育活動の課題としたい。「生徒指導や特別支援等での積極的な情報発信」は、肯定的意見が64パーセントで、中間期と比べ27ポイント下降した。きめ細やかな指導や支援に、教職員間での情報共有を欠くことは出来ない。早急に、改善を図っていかなければならない項目であると考え。「外遊びの習慣化」は、中間期と比べて10ポイント上昇したものの、肯定的意見が60%であり、まだまだ低評価な項目である。3年にも

及ぶコロナ禍の影響で、児童の体力が落ちてきている。本校の体力向上推進プランにも掲げられている通り、外遊びを奨励することで児童の体力向上を図るとともに、生涯にわたって運動に親しむ素地を児童らに育成していきたい。

・教員は児童、保護者と比べると、全体的に取組に対しての肯定的意見の割合が高く、肯定的に捉える項目も多い。中間期と経過比較すると、ほとんどの項目で肯定的意見の割合が上昇している。各々の教員が、中間期のアンケート結果を踏まえて取組の改善を試みたと思われる。22項目中17項目で肯定的意見の割合が上昇しており、本校の学校評価における PDCA サイクルはしっかりと機能していると考えられる。しかし、「生徒指導や特別支援等での積極的な情報発信」については、中間期と比べて大幅に肯定的意見の割合が減少している。喫緊の課題として、今後、改善に取り組んでいきたい。



令和4年度 保護者アンケート

家でのお子さんの様子や学校についてお答えください。当てはまる番号に○をつけてください。

		評価の視点	そう思う	だいたい そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない
学 習	1-①	お子さんは、朝の学習や家庭学習を通じて基礎学力を定着させていますか。	4	3	2	1
	1-②	お子さんは、「自主学習のてびき」で示した学年毎の目安の時間、家庭学習をしていますか。	4	3	2	1
	1-③	お子さんは、学習して分かったことや自分の考えを、ノートやプリントに書いていましたか。	4	3	2	1
	1-④	お子さんは、学校での学習内容を概ね理解できていますか。	4	3	2	1
	1-⑤	お子さんは、学習活動を通じて自分の意見や考えを言えるようになってきましたか。	4	3	2	1
	1-⑥	お子さんは、落ち着いて授業を受けていますか。	4	3	2	1
	1-⑦	お子さんは、英語を使ってみたり、外国の文化に興味を持ったりするようになりましたか。	4	3	2	1
	1-⑧	お子さんは、家で読書をしていますか。	4	3	2	1
生 活	2-①	お子さんは、家でのきまりや交通ルール、友達との約束を守ることができていますか。	4	3	2	1
	2-②	お子さんは、近所の人や教員、友達に対して丁寧な言葉を使っていますか。	4	3	2	1
	2-③	お子さんは、違う学年の子とも仲良くしていますか。	4	3	2	1
	2-④	お子さんは、年下の子を大切にしようとしていますか。	4	3	2	1
	2-⑤	お子さんは、近所の人や教員、友達に対して気持ちのよい挨拶をしていますか。	4	3	2	1

お子さんの学年（ ）年

仲間・健康	3-①	お子さんは、人の意見をよく聞いてから自分の意見を言おうとしていますか。	4	3	2	1
	3-②	お子さんは、たてわり活動を通じて異学年の児童との関わりを深め、協調性を身に付けていますか。	4	3	2	1
	3-③	お子さんは、委員会活動を通じて、自分が人の役に立っていることを認識していますか。	4	3	2	1
	3-④	お子さんは、積極的に体を動かし、外遊びや運動をしていますか。	4	3	2	1
学校	4-①	学校は、お子さんが楽しい学校生活を送ることができるように配慮していますか。	4	3	2	1
	4-②	学校は、お子さんの心に残るような学習や行事などの教育活動を実践していますか。	4	3	2	1
	4-③	学校は、様々な体験を通してお子さんに生きる力を身に付けていますか。	4	3	2	1
	4-④	学校は、外部人材を招いて体験活動を取り入れた学習を進めるなど、地域の教育力を生かした教育が行っていますか。	4	3	2	1
	4-⑤	学校は、教育方針や教育活動を分かりやすく伝え、家庭と連携を図ろうとしていますか。	4	3	2	1



ご意見等があれば、お書きください。

アンケートは以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

保護者アンケートの考察

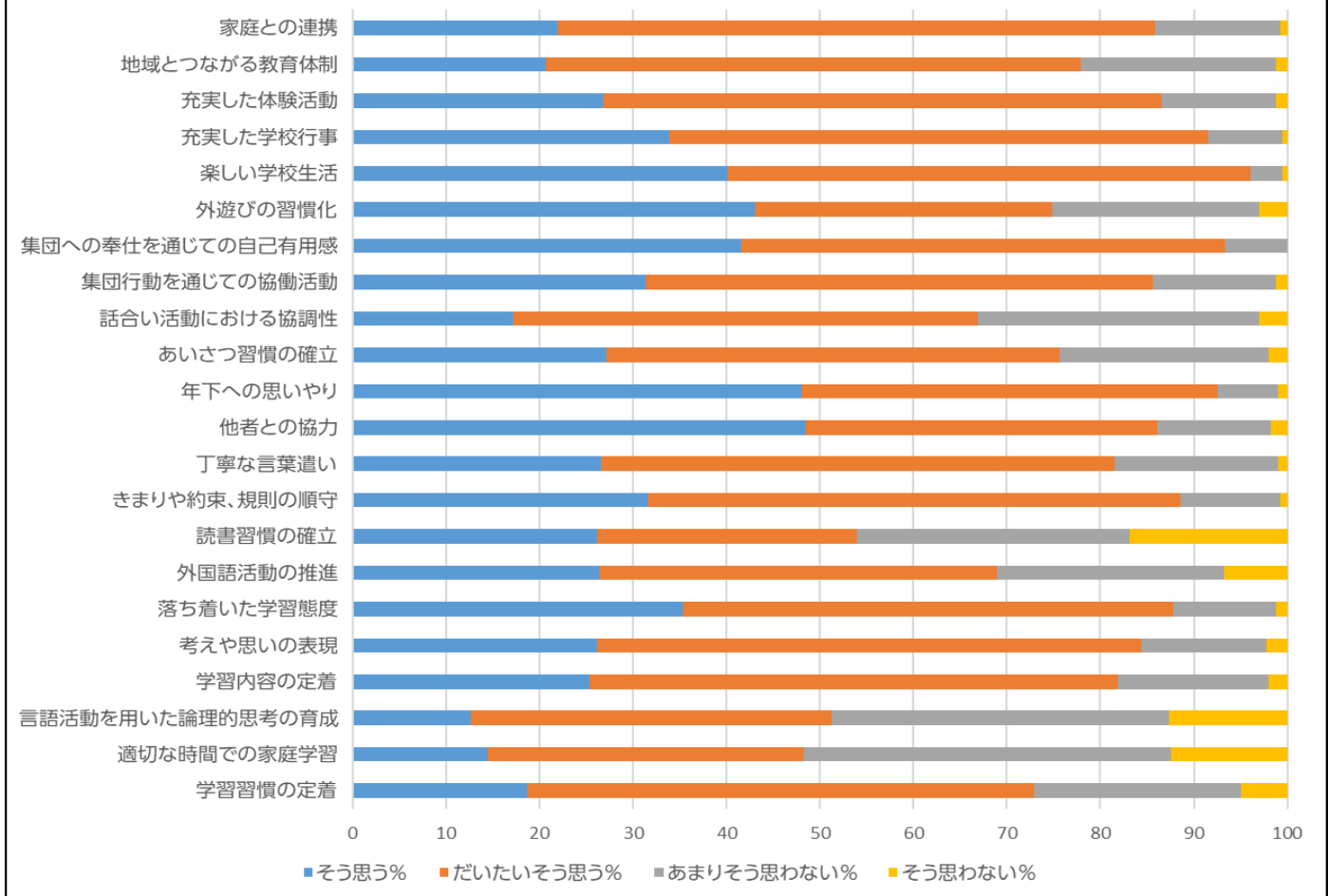
・今回の保護者アンケートで肯定的意見が高い割合だった項目は、「年下への思いやり」「集団への奉仕を通じての自己有用感」「楽しい学校生活」「充実した学校行事」の4項目で、昨年度の7項目から減少した。しかし、いずれの項目も90%以上の保護者が肯定的な評価をしており、これらの項目については、今年度、十分達成が図られたと考えられる。次いで、肯定的意見が80%以上だった項目は、「学習内容の定着」「考えや思いの表現」「落ち着いた学習態度」「きまりや約束、規則の順守」「丁寧な言葉遣い」「他者との協力」「集団行動を通じての協働活動」「充実した体験活動」「家庭との連携」の9項目である。これらの項目についても、ほぼ目標は達成されたものと思われる。「落ち着いた学習態度」は肯定的意見が88%、「きまりや約束、規則の順守」は肯定的意見が89%であり、これらについても、達成されたと考えてもよいのではないと思われる。分野別にみると、生活の分野は「あいさつ習慣の確立」以外はすべて高い評価であり、生徒指導をはじめとした教育活動について、高い評価をしてもらっていると思われる。「あいさつ習慣の確立」は、昨年度より2ポイント、一昨年度より4ポイントの下降が見られ、年々下降している。児童にコミュニケーション力を獲得させるためには、あいさつの習慣化が必要なことは言うまでもないことである。児童があいさつを習慣化できるように、家庭、地域とも連携して指導にあたっていきたい。仲間・健康や学校の分野では、肯定的意見が70%台の項目があるものの、突出して肯定的意見の割合が低い項目はなく、ある一定の達成は見られたのではないかと考える。特に、コロナ禍で学校行事や体験活動が制限されたり縮小されたりしたにもかかわらず、「充実した学校行事」「充実した体験活動」の項目において、ほぼ9割の保護者が肯定的な評価であったのは、学校行事や体験活動を工夫して実施したことを肯定的に受け止めてもらえたからだと思う。この評価を今後の励みにし、教育活動に邁進していきたい。また、「家庭との連携」は、昨年度よりも2ポイント、一昨年度よりも7ポイント上昇した。教職員一人一人が、こまめに各家庭と連絡を取り合い、連携を深めてきた結果ではないかと考える。しかしながら、記述欄には「ツイッターでもっと情報発信をしてほしい」との声があり、次年度への課題も明らかになった。学習分野では、「学習内容の定着」「考えや思いの表現」「落ち着いた学習態度」の項目が80%以上の肯定的評価であり、これらについてはほぼ達成されたと考える。「学習習慣の定着」については、肯定的意見が73%であり、昨年度より6ポイント下降した。昨年度、わずか1ポイントではあるが上昇したにも関わらず、今年度、下降に転じたという点で注意が必要である。朝の学習や家庭学習をすることで基礎学力を身に付けることは、学習を進めるうえでの前提条件といえる。家庭への積極的な啓発を継続して行い、学校と家庭が連携することで改善を図っていきたい。次年度への継続した課題としたい。

R4 全保護者学校評価アンケート

全保護者			全校	全校
分類	番号	項目	肯定意見	否定意見
学習	1-①	学習習慣の定着	73	27
	1-②	適切な時間での家庭学習	48	52
	1-③	書くことによる論理的思考	51	49
	1-④	学習内容の定着	82	18
	1-⑤	考えや思いの表現	84	16
	1-⑥	落ち着いた学習態度	88	12
	1-⑦	外国語活動の推進	69	31
	1-⑧	読書習慣の確立	54	46
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	89	11
	2-②	丁寧な言葉遣い	82	18
	2-③	他者との協力	86	14
	2-④	年下への思いやり	93	7
	2-⑤	あいさつ習慣の確立	76	24
仲間・健康	3-①	話し合い活動における協調性	67	33
	3-②	集団行動を通じての協働活動	86	14
	3-③	集団への奉仕を通じての自己有用感	93	7
	3-④	外遊びの習慣化	75	25
学校	4-①	楽しい学校生活	96	4
	4-②	充実した学校行事	92	8
	4-③	充実した体験活動	87	13
	4-④	地域とつながる教育体制	78	22
	4-⑤	家庭との連携	86	14

■	肯定的意見の割合が90～100
■	肯定的意見の割合が80～89
■	否定的意見の割合が41以上
■	否定的意見の割合が31～40
■	否定的意見の割合が21～30

R4年度末 全保護者アンケート



・否定的意見が高い割合だった項目は、昨年度と変わらず「適切な時間での家庭学習」「書くことによる論理的思考」「読書習慣の確立」の3項目であった。それぞれの項目を見ると、「適切な時間での家庭学習」は、昨年度に7ポイント上昇したものの、今年度は昨年度よりも10ポイント下降している。「書くことによる論理的思考」も、昨年度に3ポイント上昇したものの、今年度は昨年度よりも10ポイント下降している。「読書習慣の確立」も、昨年度に2ポイント上昇したものの、今年度は昨年度よりも3ポイント下降している。いずれも早急な改善が必要な項目であるにも関わらず、今年度は改善ではなく、後退した結果となっている。今年度、新たに行った対策以外にも対策を講じていかなければならないと考える。ただ、「書くことによる論理的思考」「読書習慣の確立」は、児童や教員は高評価な項目であり、保護者の認識との間にずれが見られる。学校での活動を発信するなどして、活動内容について保護者の理解を得る事や、読書習慣が児童の思考力や表現力を伸ばす大事な要素であることを啓発し続ける事も、重要なことではないかと考える。「適切な時間での家庭学習」については、依然、多くの保護者が否定的な評価をしており、喫緊の課題と捉える。今年度の全国学力学習状況調査においても、本校は市内の他の学校に比べ、家庭学習の時間が短いという結果が出ている。上級学校に進学した際に、学習習慣が身に付いていないために学業がおろそかになるということがないようにするためにも、小学校の間にしっかりと児童に身に付けることが重要であるということを家庭に啓発していきたい。年度当初に各家庭への啓発資料として配布した「家庭学習のてびき」には、児童が自主学習に進んで取り組めるように例を載せている。このことを家庭に周知徹底し、協力を仰いでいきたい。新学習指導要領で示された学力の3要素の一つである「学びに向かう力」の育成には、自主学習をはじめとした家庭学習の習慣化が大きく寄与しているという事を次年度も継続して保護者に伝え、学校と家庭が連携することで、本校の児童に適切な時間での家庭学習を習慣づけていきたい。ノートやプリントに考えを書いているかを尋ねた「書くことによる論理的思考」については、49%の保護者が否定的な評価をしている。学校の学習活動においては、道徳をはじめ他の教科でも、

プリントやワークシートへ自分の考えや思いを書くといった活動を行っている。そのため、児童と教員はこの項目で高評価をしている。活動内容を保護者に伝え、理解を得ていきたい。「読書習慣の確立」は、46%の保護者が否定的な評価をしている。同じ項目について教員は、否定的意見が16%であり、保護者との認識に乖離が見られた。学校では図書の時間に学校司書や図書館ボランティアが読み聞かせをしたり、図書室に本を借りに行ったりして子ども達が図書とふれあう機会を意図的に創り出しているため、多くの教員が肯定的に評価をしている。しかし、せっかく借りた本を家庭で読んでいないか、借りた本は読んでも、そのあと続けて読むなどの習慣化がされていない

のではないかとと思われる。短い時間でもよいので、読書する習慣が身につくような取組を模索していきたいと考える。学校と家庭が連携することで、児童に読書習慣を身に付けさせていきたい。

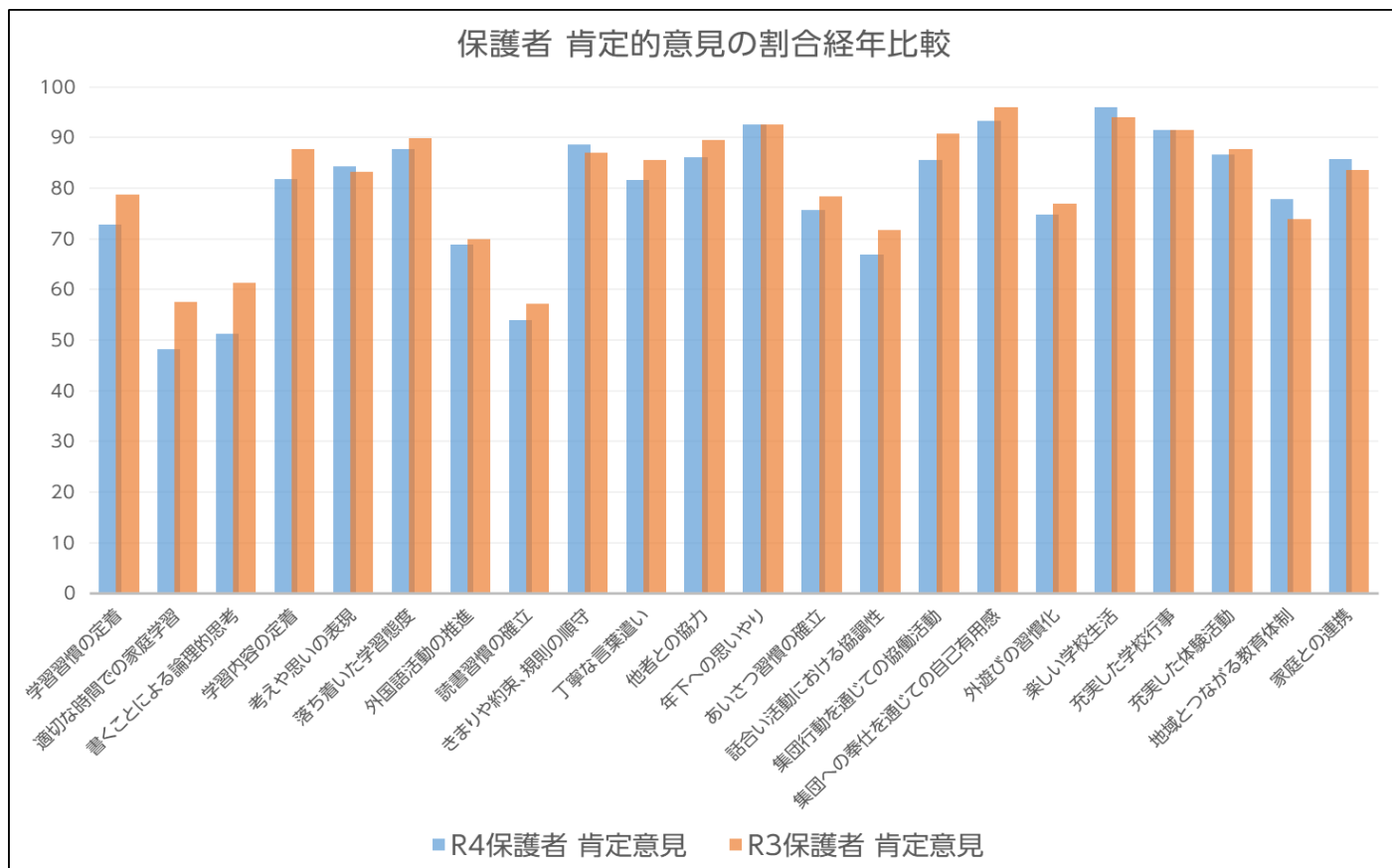
全保護者肯定的意見の割合経過比較			R4保護者	R3保護者	R4保護者	R3保護者
分類	番号	項目	肯定意見	肯定意見	否定意見	否定意見
学習	1-①	学習習慣の定着	73	79	27	21
	1-②	適切な時間での家庭学習	48	58	52	42
	1-③	書くことによる論理的思考	51	61	49	39
	1-④	学習内容の定着	82	88	18	12
	1-⑤	考えや思いの表現	84	83	16	17
	1-⑥	落ち着いた学習態度	88	90	12	10
	1-⑦	外国語活動の推進	69	70	31	30
	1-⑧	読書習慣の確立	54	57	46	43
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	89	87	11	13
	2-②	丁寧な言葉遣い	82	86	18	14
	2-③	他者との協力	86	90	14	10
	2-④	年下への思いやり	93	93	7	7
	2-⑤	あいさつ習慣の確立	76	78	24	22
健康間	3-①	話し合い活動における協調性	67	72	33	28
	3-②	集団行動を通じての協働活動	86	91	14	9
	3-③	集団への奉仕を通じての自己有用感	93	96	7	4
	3-④	外遊びの習慣化	75	77	25	23
学校	4-①	楽しい学校生活	96	94	4	6
	4-②	充実した学校行事	92	91	8	9
	4-③	充実した体験活動	87	88	13	12
	4-④	地域とつながる教育体制	78	74	22	26
	4-⑤	家庭との連携	86	84	14	16

肯定的意見の割合が80以上
肯定的意見の割合が90~100
肯定的意見の割合が31以上
肯定的意見の割合が80~89

肯定的意見の割合が41以上

肯定的意見の割合が31~40

肯定的意見の割合が21~30



児童・保護者・教員の意識比較についての考察

・三者とも肯定意見が80%以上の高評価であった項目は、「学習内容の定着」「きまりや約束、規則の順守」「丁寧な言葉遣い」「集団行動を通じての協働活動」の4項目であり、これらの項目については、今年度の教育活動において概ね達成できたと考える。中でも「きまりや約束、規則の順守」は、教員が100%、児童や保護者も9割近くの高評価であり、十分に達成されたと思われる。また、「落ち着いた学習態度」「他者との協力」「授業中の運動量の確保」「楽しい学校生活」については三者にアンケート調査をしていないものの、二者が高評価をしている項目であり、これらの項目についても今年度の教育活動において概ね達成できたとと思われる。

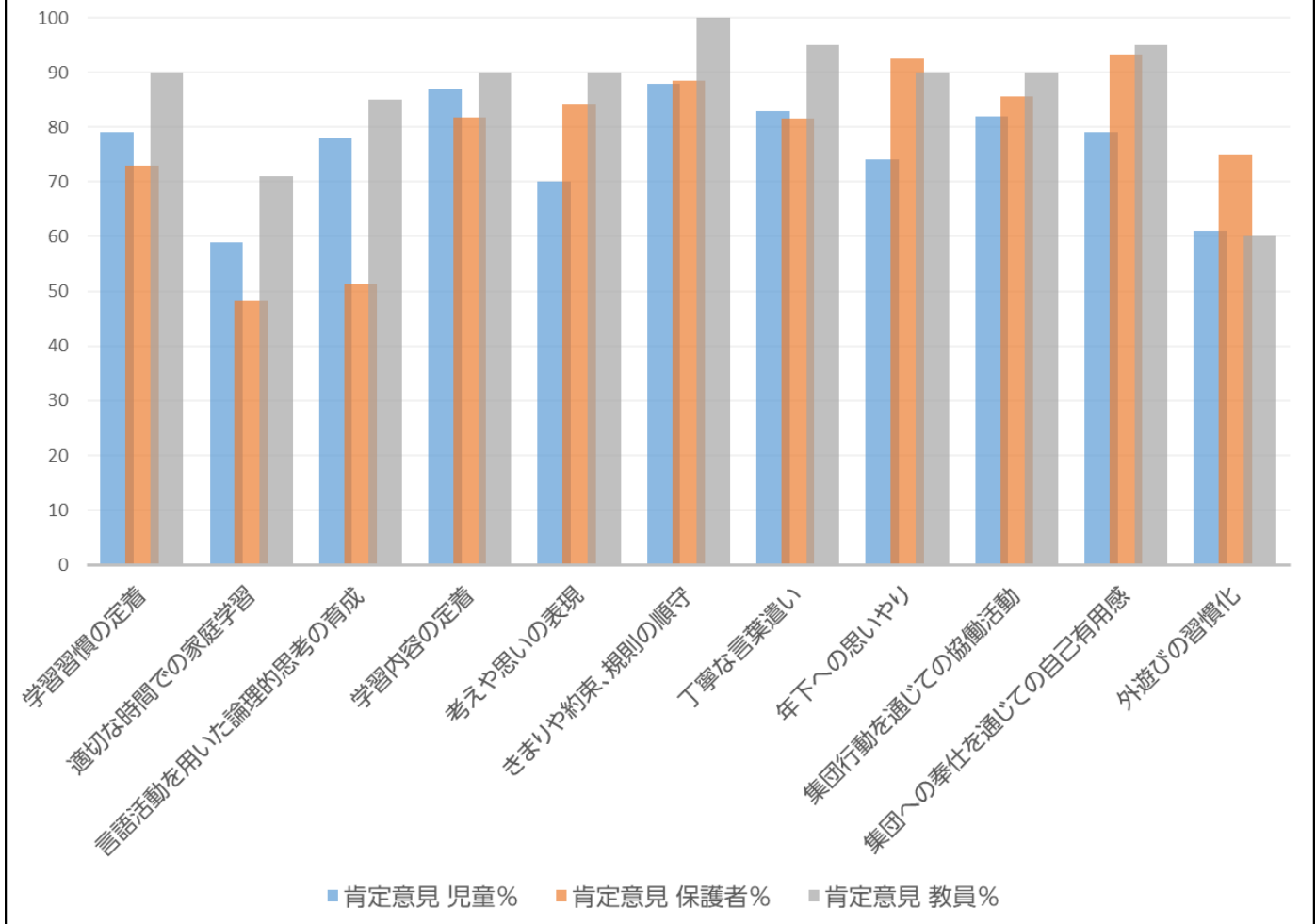
R4年度末アンケート児童・保護者・教員の意識比較

分類	番号	項目	肯定意見			否定意見		
			児童%	保護者%	教員%	児童%	保護者%	教員%
学習	1-①	学習習慣の定着	79	73	90	21	27	10
	1-②	適切な時間での家庭学習	59	48	71	41	52	29
	1-③	言語活動を用いた論理的思考の育成	78	51	85	22	49	15
	1-④	学習内容の定着	87	82	90	13	18	10
	1-⑤	考えや思いの表現	70	84	90	30	16	10
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	88	89	100	12	11	0
	2-②	丁寧な言葉遣い	83	82	95	17	18	5
	2-④	年下への思いやり	74	93	90	26	7	10
健康 仲間	3-③	集団行動を通じての協働活動	82	86	90	18	14	10
	3-④	集団への奉仕を通じての自己有用感	79	93	95	21	7	5
	3-⑦	外遊びの習慣化	61	75	60	39	25	40
学校	4-①	楽しい学校生活	82	96		18	4	
	4-②	充実した学校行事		92			8	
	4-③	充実した体験活動		87			13	
	4-④	地域とつながる教育体制		78	57		22	43
	4-⑤	家庭との連携		86			14	
	4-⑥	自己有用感の確立	64		86	36		14
	4-⑦	他者への思いやり	81			19		
	4-⑧	素直な態度	85			15		

■ 肯定的意見の割合が90～100
■ 肯定的意見の割合が80～89
■ 否定的意見の割合が41以上
■ 否定的意見の割合が31～40
■ 否定的意見の割合が21～30

・評価に15%以上の乖離が見られたのは、11項目である。その内、保護者と教員の間に20%以上の乖離が見られるのは、「適切な時間での家庭学習」「言語活動を用いた論理的思考の育成」「外国語活動の推進」「読書週間の確立」「地域とつながる教育体制」の5項目である。先の4項目については、保護者が低評価の項目であるが、教員、もしくは児童と教員は高評価しており、学校教育の場においては、ある程度達成されたのではないかと考える。しかし、家庭においては達成が不十分であり、今後、家庭に協力を求め、連携して改善していかなければならないと考える。「地域とつながる教育体制」は、保護者は高評価であるが、教員は低評価だった項目である。今年度もコロナ禍での教育活動となり、年度当初に計画していたゲストティチャーを招いての体験学習がなかなか実施できなかったことも、教員が低評価した理由の一つと考えられる。しかし、保護者は、そんな中でもスクールボランティアを活用した教育活動が展開されたことを評価したのではないかと考えられる。来年度以降、コロナの影響は徐々に収まってくると思われるが、スクールボランティアには今年度以上に教育活動に参加してもらい、ますます体験学習を充実させて本校の教育活動の充実を図りたい。「考えや思いの表現」「年下への思いやり」「建設的な意見の発言」「自己有用感の確立」は、教員や保護者は高評価であるが、児童の評価が低評価の項目である。親や教員といった大人が、児童の良さや頑張りについて機会を逃さずに認めて伝えることで、児童が自己を肯定的に受け止められるようにしていきたい。「外遊びの習慣化」は、保護者に比べ、児童と教員が低評価だった項目である。これについては、学校教育の場において達成できなかったと捉えるべきであり、来年度、改善が必要な項目である。本校の体力向上プランでも、外遊びによる体力向上が掲げられている。体育部を中心に、全校体制で改善に向けて取り組んでいきたい。

R4年度末 児童 保護者 教員の肯定意見の意識比較



・学校の分野の項目は、児童と保護者を中心に調査したものであり、「地域とつながる教育体制」「自己有用感の確立」の項目以外のそれぞれの項目については、達成、もしくは概ね達成できたと思われる。今後は、委員会活動以外の教育活動で、児童が、「自分は、人の役にたっていると思う。」と自分のことを認め、誇らしく思えるような教育活動は何かということを探求し、児童の自己有用感獲得を本校の教育課題と位置付けて、教育活動を展開していきたい。